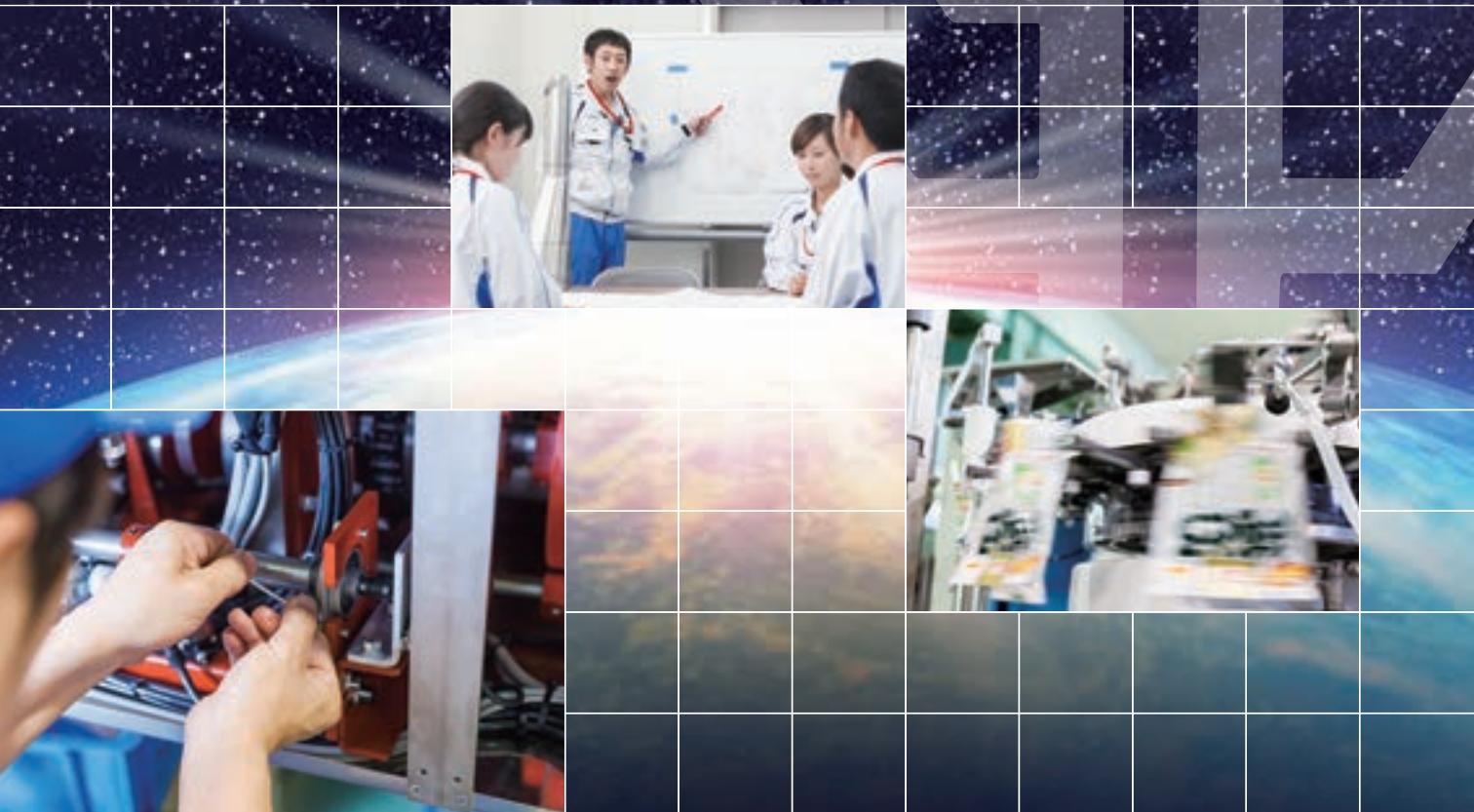


# 株主・投資家の皆様へ 中間報告書

平成25年7月期(第52期) 2012年8月1日▶2013年1月31日



証券コード: 6267

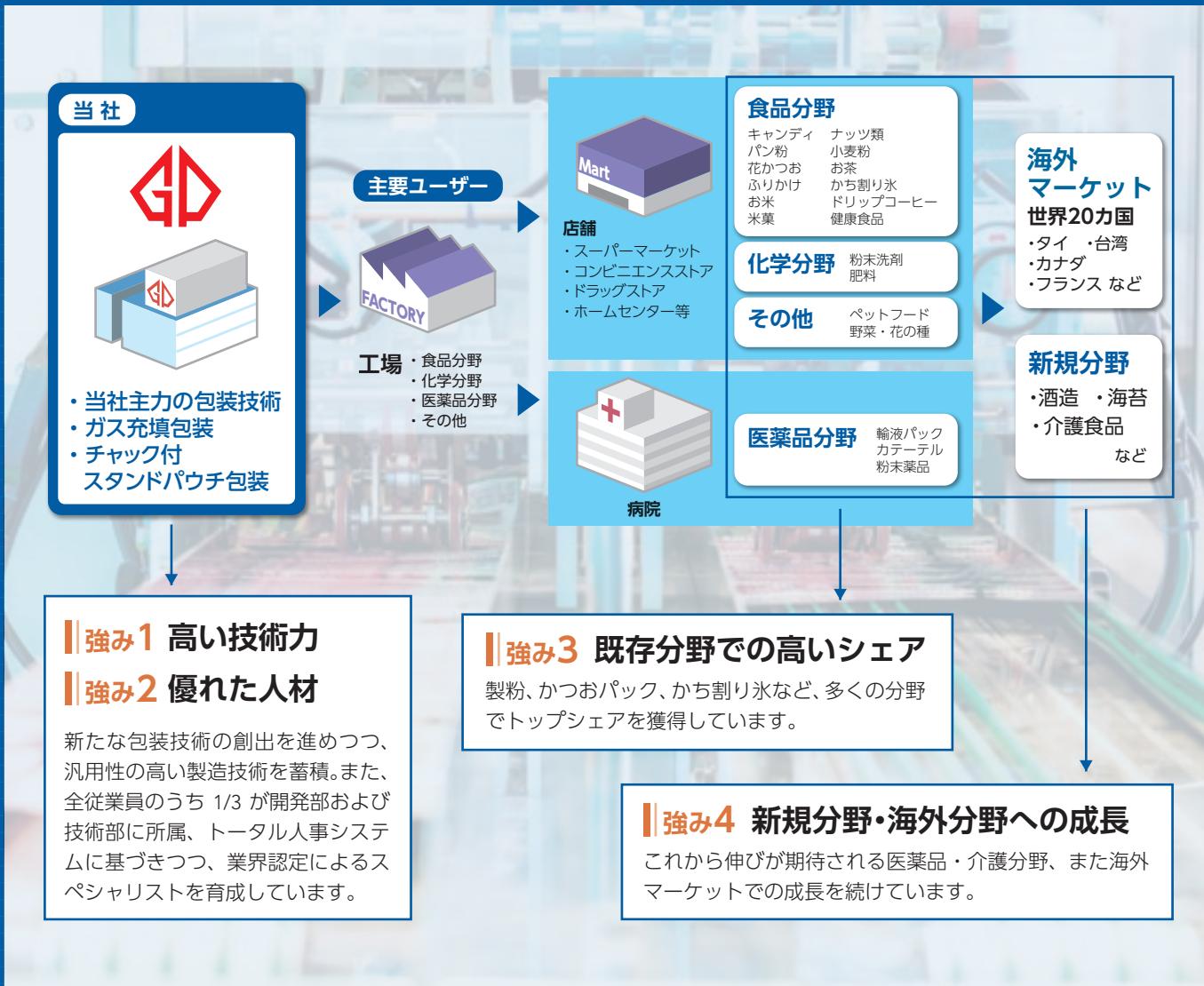


包装システムのトータルプランナー

**ゼネラルパッカー株式会社**

ゼネラルパッカーのビジネスモデルと強み

高いパッケージ技術が要求される分野で活躍しています。



海外市場と新規分野の開拓を強化し

新たな成長性を確保していきます。



代表取締役社長 梅森 輝信

社是

創造と挑戦 - 感ずる、信ずる、行動する -

経営理念

わが社はつねに、独創的な技術を活かし、顧客の要請に応える高品質な『商品』を提供する。

株主の皆様におかれましては、日頃より当社事業への厚いご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

ここに、当社第52期第2四半期累計期間（平成24年8月1日から平成25年1月31日まで）における営業状況と通期の見通しをご報告させていただきます。ご一読の上、当社事業への深いご理解のもと、今後の成長に一層ご期待くださいますようお願い申し上げます。

当期前半における中期経営計画の進捗

当社は、前期（平成24年7月期）より第3次中期経営計画をスタートし、この上期で計画3カ年の折り返し地点を迎えました。本計画では、持続的成長に向けて事業領域を拡大すべく、特に海外市場と新規分野の開拓に重点を置き、①世界に信頼される包装機メーカー ②「なんとかしたい」にトップスピードで応えるトータルプランナー ③「創造と挑戦」のモノづくり企業、の3点を中期経営ビジョンに掲げています。

将来を見据えた積極的な戦略的投資と予算支出を推進し、次期飛躍に向けた安定成長の確立を目指しています。

上期までの計画進捗を見ると、包装システムの販売拡大と給袋自動包装機の高額機種における販売増により、売上高目標に対しては概ね順調に推移しています。その一方で利益面は、高額案件における粗利の低下や研究開発費の増加等により、今のところ当初の想定を下回る水準となっています。

### 提案力強化と海外展開による販売戦略

上期の販売状況は、国内市場向けが販売台数55台・売上高1,679百万円（前年同期比395百万円増）と拡大しましたが、海外市場向けは販売台数6台・売上高180百万円（同42百万円減）にとどまりました。

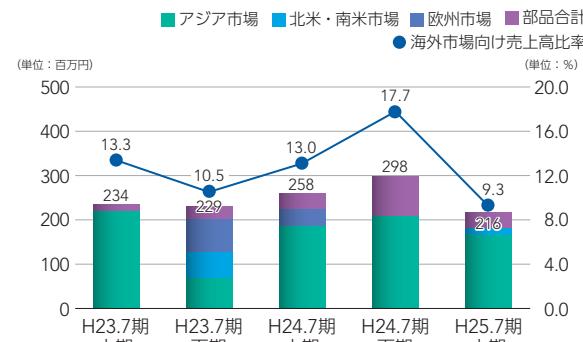
販売戦略面では、包装システムの提案力を高め、高額案件の受注につなげる取り組みに注力しています。特に、前期に締結した株式会社ワイ・イー・データとの資本業務提携を通じて、同社グループのロボット応用システムの提案を進めており、上期は製菓メーカー向け1件の売上、食品メーカー向け1件の受注を獲得しました。

新規顧客の開拓状況は、既存分野（食品、健康食品等）を中心に国内14社・海外2社の実績となりました。下期からは、展示会出展とネットPRを通じて見込み客数を増加させつつ、新規分野および海外市

場への企画提案営業をさらに強化していきます。

海外市場向けの販売実績を国別に見ると、タイ4台、インドネシア1台、台湾1台という内訳です。下期は、カナダおよびポーランドなどでの販売実績を見込んでおり、東南アジアの日系企業・現地企業向けを中心とするアジアでの販売が減少する一方、ドライペットフード向けが多い北米・南米・欧州での販売が拡大していく見通しです。今後、東南アジアの市場ニーズの把握と窓口の販売支援を強化し、同時にペットフード向けの受注活動に注力していくことで、海外売上高のさらなる拡大を図ります。

### 海外市場向けの売上高 ※機械売上高：エンドユーザー地域別



**H25.7期 上期実績**  
**アジア市場** 前年同期比  $\Delta$ 21百万円  
**欧米市場** 前年同期比  $\Delta$ 21百万円  
**部品** 前年同期比  $\pm$ 0百万円

## トピックス▶ 新機種開発納入実績 過去最高の6機種7台を納入しました

納入機種	特長	用途例
高速製袋自動包装機/GP-C7型	小袋用、既存機種の高速度化	調味料等
給袋自動包装機/GP-HZ18R型	ガゼット袋用、高能力化、ソフトな充填、作業効率化	菓子等
給袋自動包装機/GP-VS3型	業務用中袋、新方式包装機	介護食品等
正味充填給袋自動包装機/GP-5200型	高精度充填による高能力包装、当社独自の正味充填技術	粉末食品等
補正充填給袋自動包装機/GP-5300型	既存機種の省スペース化、高能力化、歩留まり向上	粉末食品等
ガス充填自動包装機/GP-GS8E型	業務用中袋、既存機種の高能力化	削り節等

### 高速製袋自動包装機【GP-C7型】 PICK UP

現在のラインナップ機C5型の後継機でもあり、小袋用ながら当社最高速の機種で、1分間に最速160袋を袋詰めすることができます。



### 開発・技術戦略のもと、新機種を積極投入

第3次中期経営計画では、研究開発の推進による新機種の市場投入を重点テーマとして、毎期3機種以上の新規開発・投入を目指しています。ユーザーは、生産設備の効率向上と高速・高能力化、より高精度な充填機能を求めており、当社はこれに応えるべく、シーズとニーズの両面からの開発を進めています。

上期は、特定ユーザーのニーズに特化した開発が中心となり、過去最高の6機種を新規開発、7台を売上計上しました（詳細は上欄「トピックス」をご参照願います）。現在は、海外市場向けのペットフード用大型包装機を開発しており、当期中に納入する予定です。

こうした開発強化に伴い、当社では開発部人員の拡充を含め、研究開発費を増加させています。当期の研究開発費は、前期比57百万円増の220百万円を予定しており、売上高に対する比率は、前期の4.4%から5.2%に上昇する見込みです。研究開発の推進

は、今後の収益拡大を担うカギであり、引き続き中期的な成長戦略に基づき、経営資源の積極投入を実施していきます。

### 通期の見通しと中期的展望について

当期の売上高は、上期において期初予想を上回ったものの、海外市場向けの需要に落ち込みが見られ、下期は計画を下回る見通しです。このため通期業績予想は、期初予想通りの増収を見込む一方で、売上品目の構成変化や開発費用増の影響により、利益面については増益ながら期初予想値を下方修正いたしました。

中期的展望としては、新機種のさらなる開発・投入による収益拡大に努めると同時に、海外市場の開拓と、医療や介護など成長分野への参入を強化していくことで、新たな成長性を確保していく考えであります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

# ゼネラルパッカー ここがポイント

ゼネラルパッカーの特長を  
一歩踏み込んで解説します

## ロータリー式 包装技術

### オンリーワンの強みをもたらす基幹技術

今から約50年前の昭和39年、当社は万能型製袋自動包装機「GP-105MB型」を開発しました。「ロータリー式包装技術」による第1号機の誕生です。

「ロータリー式包装技術」とは、袋取りから印字、充填、シール、排出までの各工程を円を描く形で配置し、自動化したものです。円周上の各工程を連続処理することにより、高品質・高難度の包装を実現します。また、機械の省スペース化を果たし、効率的に機能を付加できる点もロータリー式ならではの長特です。

仕上がりの美しさを重視した包装や特殊なパッケージングに適しており、高級ドライペットフード、食品・菓子類のスタンドパウチ、高い安全性が要求される医療機器など、多くの納品実績を有しています。

「ロータリー式包装技術」の設計上の特色は、1つの動力源からの主動作をカムやリンクといった回転支点によって連動させる「メカニカル機構」。これにより、粉体の包装など精密機械にとって過酷な環境や、長期使用においても強い耐久性を発揮し、品質を維持します。

## 1周で完了!ロータリー式包装技術のしくみ

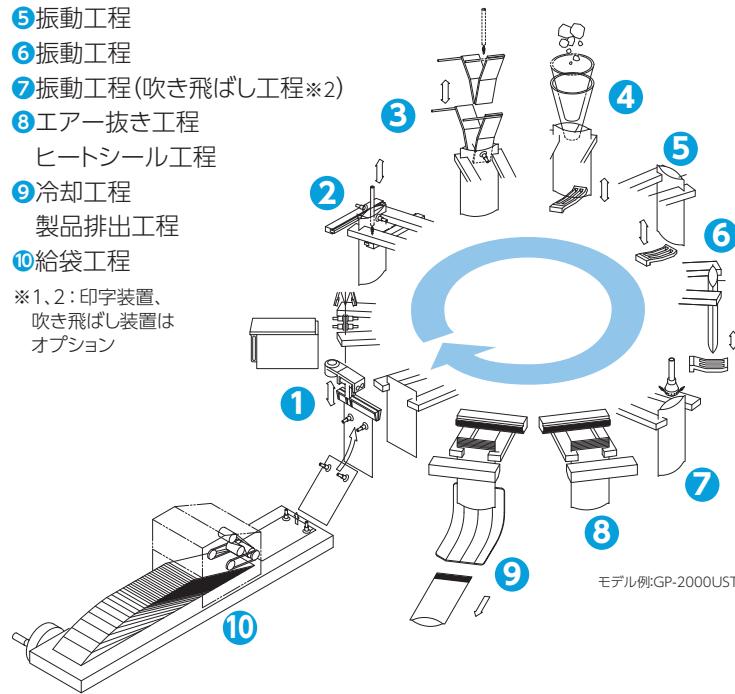
### 1周するまでの10工程

- 1 印字工程(サーマルプリンター等※1)  
チャック開き工程
- 2 袋底開口工程
- 3 袋開口工程
- 4 充填工程
- 5 振動工程
- 6 振動工程
- 7 振動工程(吹き飛ばし工程※2)
- 8 エアー抜き工程  
ヒートシール工程
- 9 冷却工程  
製品排出工程
- 10 給袋工程

※1、2: 印字装置、  
吹き飛ばし装置は  
オプション



すべての袋詰め工程を1周で完了させるロータリー式包装技術



モデル例:GP-2000UST

### メカニカル機構



動力源

1つの動力源で機械全体を連動制御



精密機械ながらも、過酷な環境下でも強い耐久性を発揮します

# フロンティア レポート

中期経営計画の柱の1つ、海外市場開拓  
世界約20ヶ国に及び海外納入先から  
特に重要な“フロンティア”をお伝えします

### 販売チャネル拡大へ、現地包装企業との取引を開拓

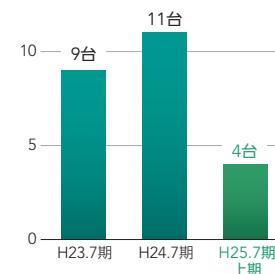
当社製品のタイにおける納入実績は、日系企業および現地企業のメーカーを顧客に、前々期は9台、前期は11台、当期は上期現在4台となっています。

高品質機種として位置付けられる当社の包装機は、タイ国内で生産し、日本や欧米などの先進国に輸出する製品のパッケージングに用いられます。その中でも、ステンレス製の水洗い対応包装機「WP10型」への評価が高く、徹底した衛生管理が求められる冷凍食品の生産現場で活躍中です。

現在は、日系計量機メーカーを窓口としての販売が主力ですが、販売チャネルの拡大に向けて、現地の包装関連企業との取引開拓に注力しています。

その一方で、日本国内の当社ユーザーである食品メーカーもタイへの進出を拡大しており、当社はそのニーズに対応すべく、積極的な展開を図っています。引き続き既存顧客への満足度調査等を通じて企画提案力を高め、さらなる深耕を図ってまいります。

### タイにおける売上台数



## No.001 タイ Thailand

インドシナ半島の中央部とマレー半島の北部に国土を拡げるタイは、総人口6,600万人を超える仏教国。古くからの親日国としても知られています。首都バンコクを中心に近代化が進み、東南アジアを代表する工業国として、著しい経済成長を遂げています。日本からは、多くの自動車関連企業や家電メーカーが工場を進出。生産拠点やASEAN諸国内への輸出拠点として活用しています。

タイ国民の生活水準が向上し、個人消費の伸びが高まる中で、現地のパッケージ市場は需要が急拡大。同時に日系食品メーカーのタイ進出も続いており、一層の市場成長が期待できます。



### タイでの主力機種

## GP-WP10

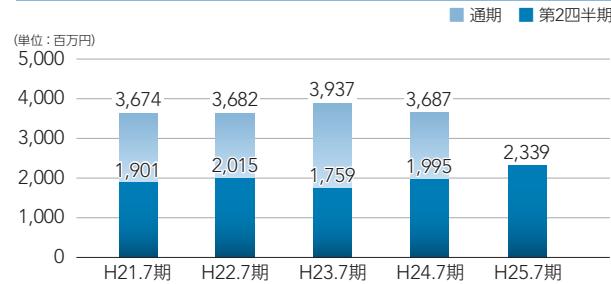
安全・衛生が合言葉  
未来志向の包装機



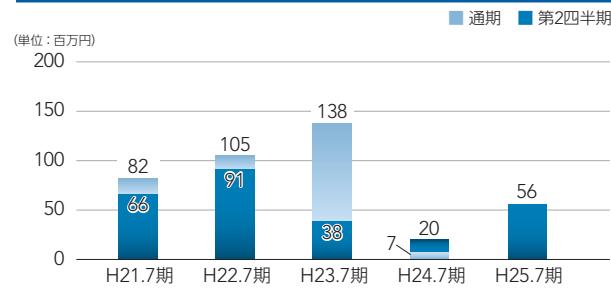
包装能力65袋/分。ステンレス製で水洗いが可能なため衛生面が気になる冷凍食品の包装に重宝されています。

水洗い対応包装機  
納入実績 H25.7期 上期 日系企業 1社  
H24.7期 現地企業 3社

売上高



当期純利益

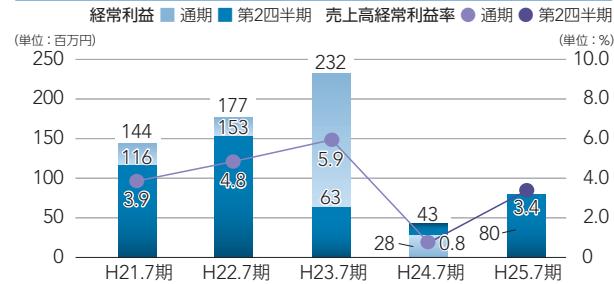


経営成績に関する定性的情報

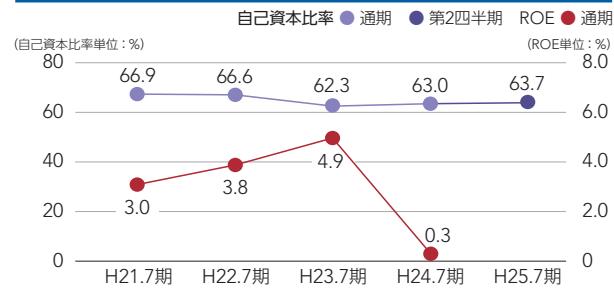
当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の復興需要等により緩やかな回復の動きが見られたものの、欧州の債務危機問題や新興国経済の減速等により、景気の先行きは不透明な状況が続きました。一方で、昨年12月に発足した新政権による諸政策への期待感から、為替相場は円安に動き株価も上昇するなど、景気回復に向けた明るい兆しも見られるようになってきました。このような状況のなか、当社は積極的な新機種開発を推進し、新たなマーケットの開拓、新機種の拡販、海外販売の強化に取り組んでまいりました。

当第2四半期累計期間における売上高につきましては、高価格機種の販売台数が増加したことから、前年同

経常利益/売上高経常利益率



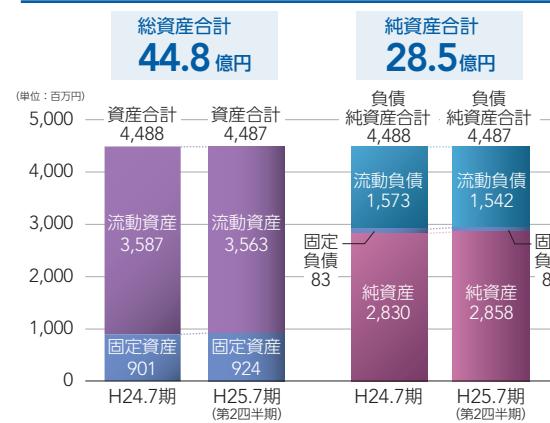
自己資本比率/ROE



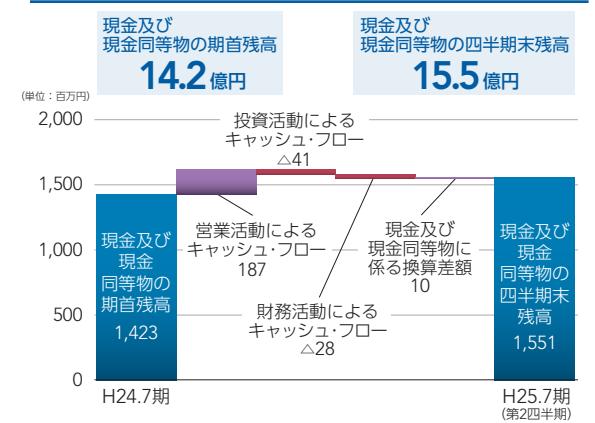
期に対し343百万円の増収となりました。収益面につきましては、売上高の増加に伴い、売上総利益は前年同期を上回りました。販売費及び一般管理費は、研究開発費等の増加に伴い前年同期より増加したものの、営業利益および経常利益につきましては、前年同期より増益となりました。

以上の結果、当第2四半期累計期間の売上高は2,339百万円（前年同期比17.2%増）、営業利益66百万円（前年同期比64.0%増）、経常利益80百万円（前年同期比85.3%増）、四半期純利益56百万円（前年同期比169.6%増）となりました。

財務状況



キャッシュ・フローの推移



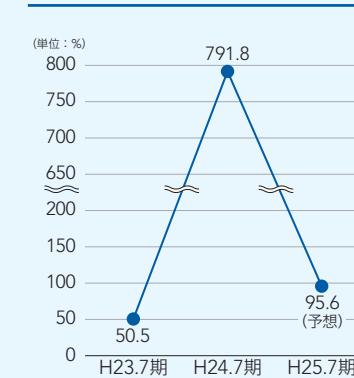
株主還元方針

株主の皆様への積極的な利益還元を図ることを基本方針として、配当性向50%または純資産配当率(DOE)2%を目安に、安定配当を堅持しつつ、業績動向を見ながら配当金の増加を目指しています。

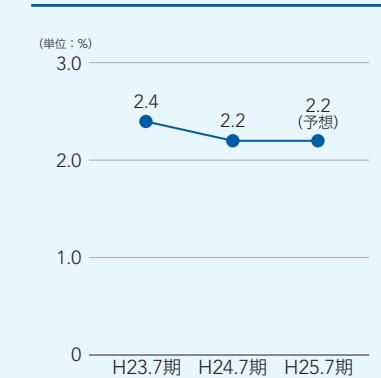
1株当たり配当金



配当性向



純資産配当率 (DOE)



給袋自動包装機 (ガス充填自動包装機含む)

売上高 **1,479** 百万円 前年同期比33.1%増



給袋自動包装機は、販売台数は減少したものの高価格機種の実績が増加したことから、売上高は1,479百万円(前年同期比33.1%増)となりました。

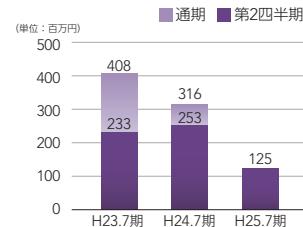


製袋自動包装機

売上高 **125** 百万円 前年同期比50.5%減



製袋自動包装機は、販売台数が減少したことから、売上高は125百万円(前年同期比50.5%減)となりました。

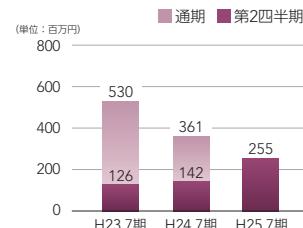


包装関連機器等

売上高 **255** 百万円 前年同期比80.1%増



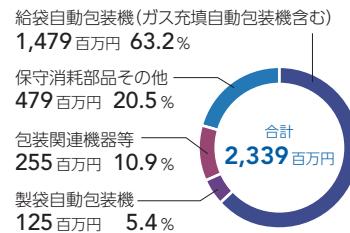
包装関連機器等は、包装システムの販売実績が増加したことから、売上高は255百万円(前年同期比80.1%増)となりました。



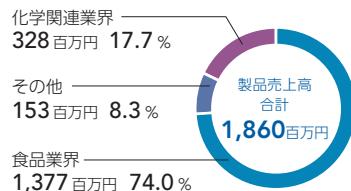
機械受注高



品目別売上高



最終ユーザー業界別売上高



■ 会社概要 (平成25年1月31日現在)

商号	ゼネラルパッカー株式会社	
英文社名	GENERAL PACKER CO., LTD.	
設立	昭和41年2月(創業 昭和36年12月)	
資本金	2億5,157万7千円	
事業内容	各種自動包装機・荷造用機械及び周辺装置の製造・販売・修理それに附帯する一切の業務	
従業員数	121名	
本社・工場	〒481-8601 愛知県北名古屋市宇福寺 神明65番地 Tel.(0568) 23-3111 (代) Fax.(0568) 22-3222	
東京営業部	〒101-0045 東京都千代田区神田鍛冶町 三丁目5番地8 神田木原ビル4F Tel.(03) 3256-3891 (代) Fax.(03) 3256-3893	

■ 取締役及び監査役 (平成25年1月31日現在)

代表取締役社長	梅森輝信	
常務取締役	小関幸太郎	管理部 兼 資材部担当
取締役	鈴木完繁	営業本部長
取締役	池田勇次	生産部担当
取締役	牧野研二	開発部長 兼 技術部担当
取締役	濱田兼幸	
常勤監査役	余川善明	
監査役	村橋泰志	
監査役	浅井一郎	

■ 株式の状況 (平成25年1月31日現在)

発行可能株式総数	28,000,000 株
発行済株式総数	8,994,000 株
株主数	870 名

■ 大株主 (平成25年1月31日現在)

株主名	持株数 (株)	議決権比率 (%)
ゼネラルパッカー従業員持株会	1,363,000	15.37
株式会社ワイ・イー・データ	1,350,000	15.22
原 淳	601,000	6.77
ゼネラルパッカー取引先持株会	402,000	4.53
株式会社りそな銀行	392,000	4.42
高野 季久美	364,000	4.10
田中 かな	364,000	4.10
梅森 輝信	204,000	2.30
島末 孝法	196,000	2.21
滑 達彦	140,000	1.57

株主数構成比



種類	株数	割合 (%)
個人-その他	840名	96.55%
その他法人	19名	2.18%
証券会社	7名	0.81%
金融機関	3名	0.35%
自己名義	1名	0.11%

株式数構成比



種類	株数	割合 (%)
個人-その他	6,781,012株	75.40%
その他法人	1,517,400株	16.87%
金融機関	499,000株	5.55%
自己名義	119,733株	1.33%
証券会社	76,855株	0.85%

# IRサイトでも、詳しい情報を提供しています。

当社ホームページでは、新着情報、会社情報、商品情報、IR情報等、様々な情報をご提供しています。  
今後も皆様にお役立ていただけるよう掲載情報の一層の充実を図ってまいります。

[http://www.general-packer.co.jp/ir\\_index.html](http://www.general-packer.co.jp/ir_index.html)



## 主なコンテンツ

### 個人投資家の皆様へ

当社の事業内容、事業の特徴、包装機械業界について、配当についてをわかりやすく説明してあります。まずはこちらからご覧下さい。

### 最新IR資料一括ダウンロード

決算短信、決算説明会資料など、最新のIR資料をワンクリックでまとめてダウンロードすることができます。



### ニュースメールにご登録ください

最新のニュースリリース、ホームページの更新情報、IR関連のメールマガジンなどをメール配信するサービスです。(不定期配信)



## 株主メモ

事業年度	8月1日から翌年7月31日まで
定時株主総会	10月
基準日	定時株主総会 7月31日 期末配当金 7月31日 中間配当金 1月31日 その他あらかじめ公告する一定の日
株主名簿管理人	東京都中央区日本橋茅場町一丁目2番4号 日本証券代行株式会社

同事務取扱場所	〒103-8202 東京都中央区日本橋茅場町一丁目2番4号 日本証券代行株式会社 本店 Tel. (03) 3668-9211 (代)
---------	--

公告方法 電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

公告掲載URL <http://www.general-packer.co.jp/>

### 各種手続きのお申出先

- 未払配当金のお支払いについては、株主名簿管理人にお申出ください。
- 住所変更、単元未満株式の買取、配当金受取方法の指定等証券保管振替機構（ほふり）をご利用の株主様は、お取引の証券会社へお申出ください。証券保管振替機構（ほふり）をご利用でない株主様は、特別口座の口座管理機関である日本証券代行株式会社へお申出ください。

## 包装システムのトータルプランナー ゼネラルパッカー株式会社

●本社・工場  
〒481-8601 愛知県北名古屋市宇福寺神明65番地  
Tel. (0568) 23-3111 (代) Fax. (0568) 22-3222  
●東京営業部  
〒101-0045 東京都千代田区神田鍛冶町三丁目5番地8 神田木原ビル4F  
Tel. (03) 3256-3891 (代) Fax. (03) 3256-3893

